

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

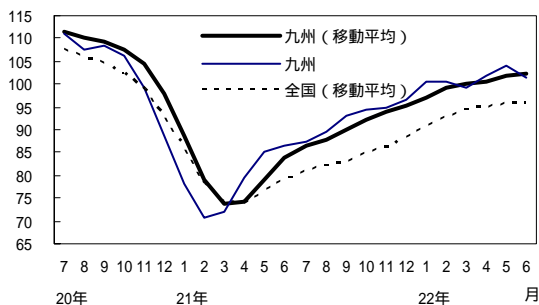
	前回(平成22年5月)	今回(平成22年8月)	
個人消費	持ち直している	緩やかに持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

電子部品・デバイスは、携帯電話向けの堅調な需要を受け、ロジック・メモリ等のモス型計数回路を中心に増加している。輸送機械は、政策効果の影響から堅調に推移しているものの、前期の反動から減少に転じた。食料品・たばこは、天候不順の影響から、清涼飲料・ビールの不振の影響を受け、減少に転じた。一般機械は、半導体製造装置を中心に増加している。化学は、大型定期修繕等が終了したことから、スチレンモノマー等を中心に増加している。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	15.6	0.8	5.3	3.6	14.4
輸送機械	15.4	14.5	3.4	3.5	231.6
食料品・たばこ	10.6	2.4	2.4	1.3	0.0
一般機械	10.6	25.4	13.1	12.8	12.1
化学	8.2	2.2	3.0	0.8	1.2
鉱工業	100.0	5.3	2.2	0.8	6.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

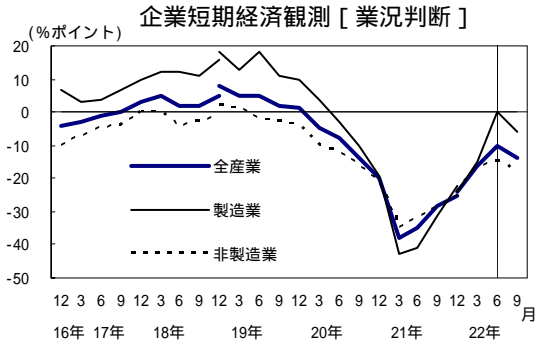
2. 4~6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

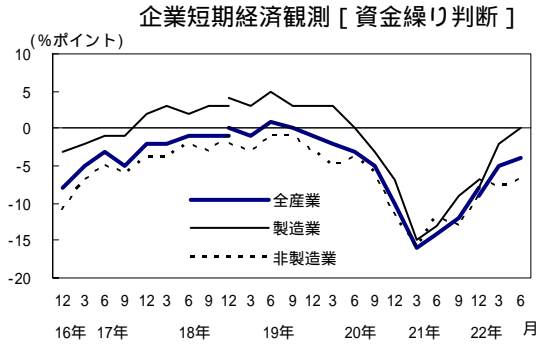
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

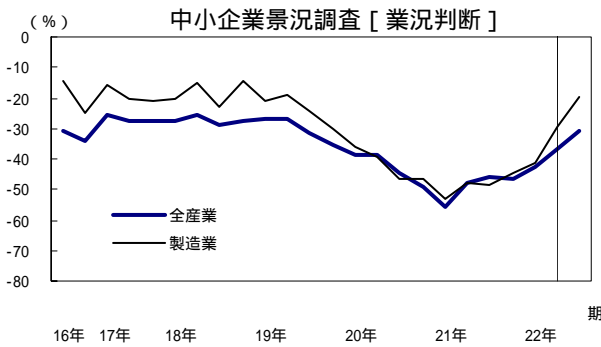
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

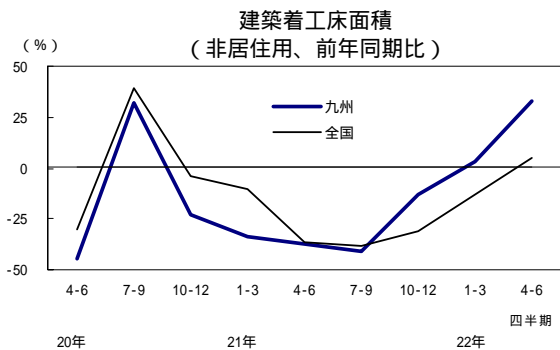
「受注量は処理能力をオーバーするくらい入っているが、受注価格は下落傾向にあり、受注しても材料価格が上昇している。客の要望で受注価格が大変厳しい環境になってきている(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	16.6 (1.2)	12.8(7.7)
製造業	38.4 (1.3)	19.7(11.6)
非製造業	1.6 (2.3)	9.8(6.0)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

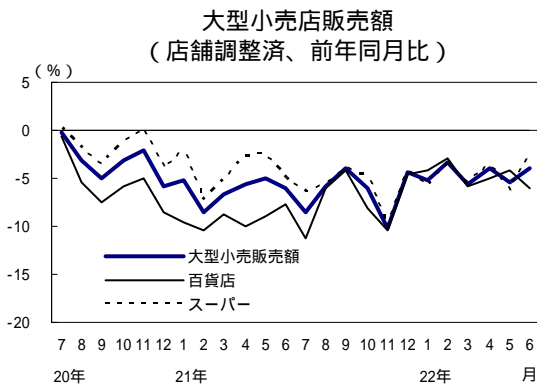
大型小売店販売額

百貨店は、4月は多雨低温の天候不順により衣料品が苦戦したものの、物産催事の影響により飲食料品が好調であったことから、前年比減少幅は縮小した。5月は、ゴールデンウィーク期間中は好天に恵まれ、気温も高かったことから、衣料品を中心に改善の動きがみられ、前年比減少幅は縮小した。6月は、気温が高めに推移したことから、前月に衣料品を中心に改善の動きが見られたものの、靴や鞆などの身の回り品、中元ギフトの低調から飲食料品は不調であり、前年比減少幅は拡大した。なお、日本百貨店協会によると、福岡地区の7月の売上高は、前年同月比で1.1%減、福岡を除く九州・沖縄地区の7月の売上高は、前年同月比で2.3%減となっている。

スーパーは、野菜価格の高騰から一時、飲食料品が振るわなかったものの、気温が高めであったことから、衣料品や飲食料品を中心に改善がみられ、前年同期比の減少幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

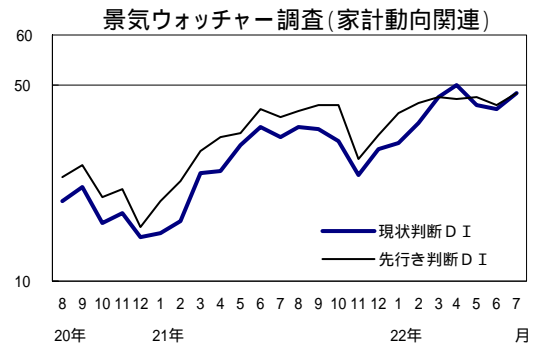
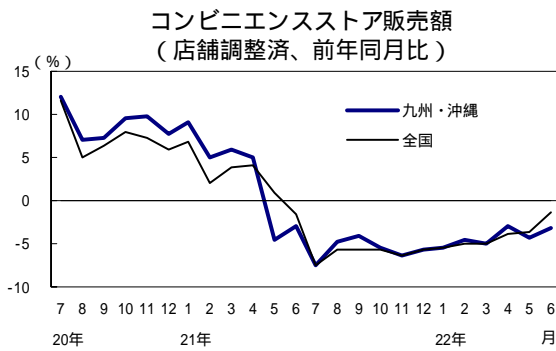
「梅雨の時期は雨ばかりで客の出足が鈍かったが、7月下旬から地域振興券を販売し、その分、持ち直している(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
大型小売店	6.3	6.6	4.8	4.5
百貨店	7.7	7.4	4.4	5.0
スーパー	5.5	6.1	5.0	4.2
乗用車	2.7	21.0	29.8	41.1
景気ウォッチャー	40.4	35.6	42.4	46.8

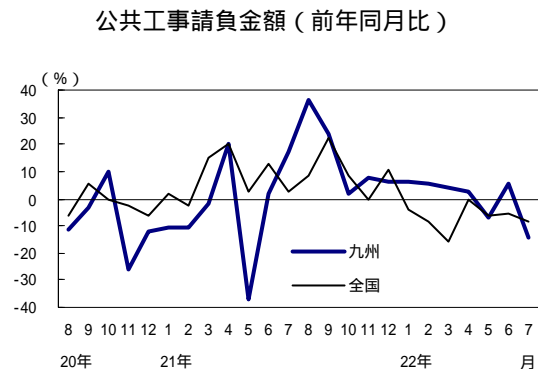
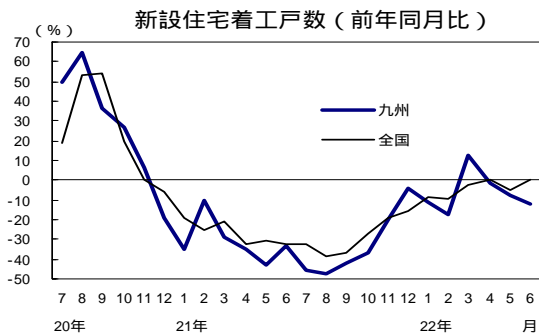
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済、九州・沖縄地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

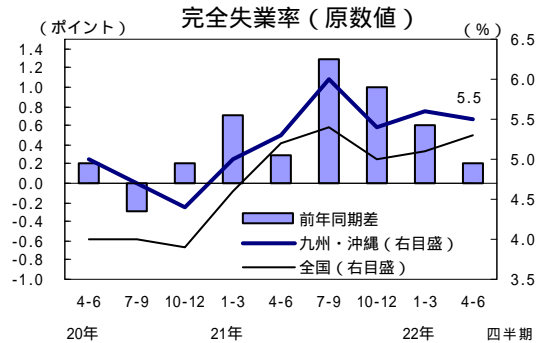
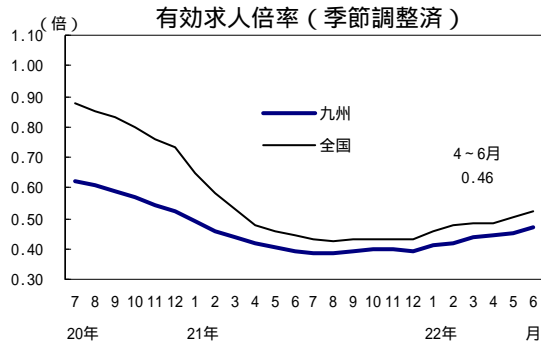


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

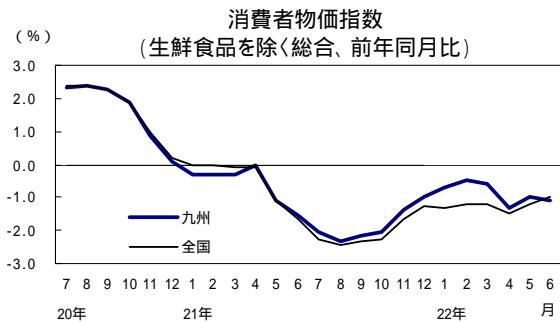
「派遣の新規案件の受注もあるが、人員削減による終了もある。半導体分野での需要が復活しているが、事務スタッフの派遣については今のところ動きはない（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月	7月
倒産件数 (前年比)	242 32.2	249 31.6	215 19.2	182 35.7	69 25.8
負債総額 (前年比)	476 69.8	485 74.7	424 61.7	259 74.8	217 25.5



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・例年より土用丑の日の注文が入っている。ただ、店で焼くという売り方が受け入れられてきたのか、値段だけではないということなのかは分からない（一般小売店〔鮮魚〕）。

<先行き>

・宮崎県内の口蹄疫の非常事態宣言が先月27日で解除され、完全終息に向けてイベントが始まった状況である。これから復興に向け、各方面で良くなる（商店街）。

